

令和元年度（2019年度） 第4回
横須賀市国民健康保険運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和2年（2020年）2月4日（火）
午後1時30分～午後2時10分
- 2 開催場所 301会議室
- 3 出席者名
【委員】 岡 昌憲、鈴木軍次、小澤アヤ子、織田俊美、
鈴木博美、吉澤正治、遠藤千洋、松本好文、
高橋達也、長堀 薫、堀越君枝、北岡英子、
大倉國光、内田 明
（敬称略）＊16名中14名出席
【事務局】 植野福祉部長 外10名
【傍聴者】 2名

4 会議内容

横須賀市国民健康保険運営協議会規則第2条の規定に基づき、岡会長が議長となり、会議録署名委員に高橋委員及び北岡委員を指名し、会議次第に沿って議事に入った。

議題1. 令和元年度特別会計国民健康保険費補正予算（第1号）（案）
について

資料により事務局（島課長）が説明した。

○その後、質疑なく議題1について了承された。

議題2. 令和2年度特別会計国民健康保険費予算（案）について

資料により事務局（島課長）が説明し、出席委員から次の質疑があった。

質疑応答等

（長堀委員）

横須賀市全体の人口は減少しているが、高齢者の人口は増加していて、医療需要予測では2030年まで増加するという推測がある。国民健康保険費の令和元年度予算が約490億円で、令和2年度予算が440億円であり、約50億円減少しているが、その理由は何か。医療需要は減るということか。

(事務局)

昨年度と今年度の比較で一番影響が大きいのは繰越金である。また、被保険者のゆるやかな減少も一つの要因となっている。75歳で後期高齢者医療制度へ移行する方や、定年延長の影響で60歳以上の方でも社会保険に加入している方がいる。市全体の医療費は増加するが、国民健康保険自体はそのような様々な理由で被保険者自体が減ってきているため、全体の予算も減額となる。

(織田委員)

社会保障・税番号制度システム整備費補助金とは何か。

(事務局)

オンラインでの資格確認に対応するために、被保険者の情報をマイナンバーカードの情報と連携させるための費用である。国民健康保険は世帯単位で番号を持っていたが、それを1人単位へするためのデータ修正費用となる。国庫補助金が交付される。

(織田委員)

マイナポイントの25%還元とは関係あるのか。

(事務局)

来年3月からマイナンバーカードが保険証替わりとなり、そのシステム改修にかかる費用である。マイナポイント等の経済対策の話とは別である。

(遠藤委員)

歳出が全体的に減少している中で、特定健康診査等事業費が増加しているのはなぜか。

(事務局)

来年度の受診率の目標が1%上がったためである。

○その後、質疑なく議題2について了承された。

議題3. 横須賀市国民健康保険条例中改正(案)について

資料により事務局(島課長)が説明し、出席委員から次の質疑があった。

質疑応答等

(高橋委員)

この改正により横須賀市全体でどの程度の影響が出るのか。

(事務局)

1人1円ずつ下がることになるので、全体の金額としては335円の影響が出る。

○その後、質疑なく議題3について了承された。

議題4. その他について

資料により事務局(島課長)が説明し、出席委員から次の質疑があった。

(内田委員)

開催はいつ頃になるのか。

(事務局)

8月及び2月の開催を予定している。

○その後、質疑なく議題4について了承された。

本日の全ての議事は終了したことを議長が宣言し、閉会した。